

平成25年度  
アーカイブズ・カレッジ  
史料管理学研修会

Archives  
College

記録遺産を未来へ

長期コース 東京  
平成25年 7 月22日(月)～ 8 月16日(金)  
平成25年 8 月26日(月)～ 9 月20日(金)  
短期コース 遠野(岩手県)  
平成25年11月11日(月)～11月22日(金)

主催  
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国文学研究資料館



# 平成25年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会通算第59回）実施要項

## 1. 趣 旨

古文書・公文書から音声映像記録まで、アーカイブズ（記録史料）は、人類共有の文化遺産として、また現代に生かすべき情報資源として、極めて大切なものです。近年、我が国でもアーカイブズの重要性に対する認識が高まり、文書館・資料館等の史料保存利用機関が増加するとともに、これらの機関においてアーカイブズの保存と利用サービス等の業務を担うアーキビスト（記録史料専門職員）の養成が急務となってきました。国文学研究資料館では、このような動きに応えるべく、1988年に「史料管理学研修会」を開設し、アーカイブズの収集・整理・保存・利用等に関する最新の専門的知識、技能の普及に努めてきました。2002年度からはこれを「アーカイブズ・カレッジ」としてさらに改善しました。特に長期コースではアーカイブズ学の研究に意欲を持つ方を歓迎します。

## 2. 主 催 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館

## 3. 共 催 遠野市、釜石市

## 4. 期 間

### A. 長期コース（東京会場）

前期＝平成25年7月22日（月）～平成25年8月16日（金）20日間

後期＝平成25年8月26日（月）～平成25年9月20日（金）19日間

ただし、前期第4週及び後期第4週の「修了論文の指導と作成」は国文学研究資料館あるいは自宅又は職場で行うこととします。なお、長期コースは、前期・後期一括参加のみとします。来年度カリキュラム改訂のため、今年度は分割履修はありません。また、有職者に限り、開講科目のうち1科目（科目1～6）のみの聴講が可能です（特別聴講と呼ぶ）。

### B. 短期コース（遠野会場）

平成25年11月11日（月）～平成25年11月22日（金）11日間

ただし、第2週の「修了論文の指導と作成」は自宅又は職場で行うこととします。

## 5. 会 場

### A. 長期コース（東京会場）

国文学研究資料館 東京都立川市緑町10-3 TEL (050) 5533-2910

### B. 短期コース（遠野会場）

遠野市立図書館 岩手県遠野市東館町3-9 TEL (0198) 62-2340

## 6. 日 程 別掲「日程」の通り。

## 7. 申込資格

次のいずれかに該当する方です。

(1) 文書館などの歴史資料保存利用機関をはじめとして、官公署・大学・企業等の文書担当部局及び歴史編纂部局、又はアーカイブズを取り扱う必要のあるその他の組織に勤務し、アーカイブズの収集・整理・保存・利用等の業務に従事している者。

(2) 大学院在学中又は大学卒業以上の学歴を有する人で、アーカイブズ学に強い関心を持つ者。

## 8. 定 員

長期コース30名（特別聴講若干名を含む）、短期コース35名（いずれも定員を上回る応募があった場合は選考を行います）。

## 9. 修了論文

全科目修了後、長期コース研修生は400字詰30枚以上、短期コース研修生は400字詰10枚程度の修了論文を、定められた期日までに提出するものとします。

## 10. 修了証書

全課程を修了し、修了論文の審査に合格した研修生に修了証書を授与します。

## 11. 受講料

無料（ただし、テキスト代は受講者負担〔500円程度〕）。

## 12. 申込方法

別紙の申込書に必要事項を記入し、封筒に「アーカイブズ・カレッジ申込書」と朱書の上、長期コースについては平成25年5月10日（金）までに、短期コースについては平成25年6月14日（金）までに下記あてに郵送すること（当日消印有効、ファックスは不可）。

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3 人間文化研究機構国文学研究資料館管理部総務課企画広報係

なお、本カレッジについての問い合わせは、管理部総務課企画広報係（TEL (050) 5533-2910）へお願いします。

### 13. 研修内容と講師（予定。なお講師の所属は平成25年3月1日現在のもの）

#### A. 長期コース（東京会場）

科目名	〔科目1〕 アーカイブズ総論	担当教員	大友一雄
ねらいと柱	<p>本カレッジの導入として、アーカイブズ（記録史料/文書館）の基本的な概念・歴史並びに現代社会におけるアーカイブズとアーキビスト（記録史料専門職）の役割、社会的・文化的責任について総合的に学び、アーカイブズの幅広い業務の根幹となる知識と価値観を獲得する。</p> <p><b>1. 現代社会とアーカイブズ</b> アーカイブズの基本概念、アーカイブズ機関等の活動を支える基礎的理論を学び、アーカイブズ学の目的と研究対象について理解するとともに、アーカイブズ機関等の社会的、文化的使命について、幅広く考える。</p> <p><b>2. アーカイブズの歴史</b> 世界の近代文書館システムの発展の歴史、日本における前近代の文書管理から戦後の史料保存運動の歴史を学ぶとともにアーカイブズの未来を展望する。</p> <p><b>3. アーキビストの役割と養成</b> アーカイブズの専門職であるアーキビストの使命および具体的な役割、アーキビストの教育・養成はどのように行われるのかについて、諸外国の事例を踏まえつつ学ぶ。</p> <p><b>4. アーカイブズ学関連領域論</b> アーカイブズ学と関連する領域の資源やそれを支える学問について学び、改めてアーカイブズ学の位置とアーキビストの役割について考える。</p> <p><b>5. アーカイブズと情報技術</b> 現代における記録・アーカイブズに関わる電子的情報環境を理解し、アーカイブズ機関が必要とする基礎的電子情報技術、情報管理について学ぶ。</p> <p><b>6. アーカイブズと法概念</b> アーカイブズの保存・利用に関わる法制の現状と問題点及び今後の課題について、個人情報保護、証拠法の概念やアカンタビリティなどの問題も含めて学ぶ。</p> <p><b>7. アーカイブズ機関の組織と運営</b> 現代のアーカイブズ機関の実態について、施設を訪問し、文書館の現場で学ぶ。</p> <p><b>8. アーカイブズ管理の実際</b> アーカイブズの管理の仕組みや公開の方法について具体的な活動を実見することで学ぶ。</p>		
内容と構成	コマ	内 容	講義担当者
	1	<b>1. 現代社会とアーカイブズ</b>	大友一雄
	2	(1) アーカイブズ理論	
	3	(2) 現代社会におけるアーカイブズの役割	大友一雄
	4	<b>2. アーカイブズの歴史</b>	
	5	<b>3. アーキビストの役割と養成</b>	安藤正人 (学習院大学)
	6	(1) アーキビストの役割	
	7	(2) アーキビストの教育と養成	保坂裕興 (学習院大学)
	8	<b>4. アーカイブズ学関連領域論</b>	
	9	<b>5. アーカイブズと情報技術</b>	古瀬 蔵
	10	<b>6. アーカイブズと法概念</b>	
	11	(1) アーキビスト関連法制理論	早川和宏 (大宮法科大学院大学)
	12	(2) 公文書館法・公文書管理法および情報公開法・個人情報保護法	
	13	<b>7. アーカイブズ機関の組織と運営</b>	埼玉県立文書館
	14		
	15	<b>8. アーカイブズ管理の実際</b>	
	16	<b>9. 総括演習</b>	
			山田哲好・青木睦
			大友一雄

科目名	〔科目2〕アーカイブズ資源研究		担当教員	西村慎太郎
ねらいと柱	<p>本科目では、アーカイブズ学の分析対象であるアーカイブズ資源そのものに関する研究を行う。</p> <p>第一には、アーカイブズの出所である組織体に注目し、その内部構造との関わりにおいて記録・情報がどのように管理されてきたのかをそれぞれの時代ごとに明らかにする。その場合記録の作成・授受・管理はもちろんのこと、記録それ自体の媒体・形態論にも目を配る。第二には、そうしたそれぞれの時代における記録管理研究に基づいて、日本に存在する記録史料群のタイプ別に階層構造を通時代的に考える。後者は、アーカイブズ管理研究に直接つながっていく研究である。講義の柱は以下の4本である。</p> <p><b>1. アーカイブズ資源研究総論</b> 既に完結した歴史的なアーカイブズに関する研究方法について学ぶ。</p> <p><b>2. 近現代組織体の記録と管理</b> 近現代のアーカイブズについて、具体的な事例に即しながら、その出所である組織体の特質を把握したうえで、記録管理システムについて学ぶ。</p> <p><b>3. 前近代組織体の記録と管理</b> 前近代のアーカイブズについて、具体的な事例に即しながら、その出所である組織体の特質を把握したうえで、当時の記録管理システムについて学ぶ。</p> <p><b>4. アーカイブズ構造論</b> 歴史的な記録史料群の階層構造について、組織文書・個人文書・家文書というタイプ別に学ぶ。</p>			
内容と構成	コマ	内 容		講義担当者
	1	<b>1. アーカイブズ資源研究総論</b>		西村慎太郎
	2			
	3	<b>2. 近現代組織体の記録と管理</b> (1) 公的組織の記録と管理－国・地方自治体 (2) 非公的組織の記録と管理－企業・団体 (3) 個人の記録と管理		加藤聖文
	4			
	5			
	6	(4) 公的組織の記録と管理－特殊例（外務省）		浜井和史 (外務省外交史料館)
	7	<b>3. 前近代組織体の記録と管理</b> (1) 統治組織体の記録と管理－幕府・藩－		大友一雄
	8			
	9	(2) 社会組織体の記録と管理－家・村・町・仲間組織・講－		渡辺浩一
	10			
	11	<b>4. アーカイブズ構造論</b> (1) 組織文書・個人文書		加藤聖文
	12			
	13	(2) 家文書		西村慎太郎
	14			
	15	<b>5. 総括演習</b>		西村・加藤

科目名	〔科目3〕アーカイブズ管理研究Ⅰ 調査と収集	担当教員	渡辺浩一
ねらいと柱	<p>アーカイブズの永続的保存と活用のための社会装置、文書館の機能とはいかにあるべきか、理念と実態について考察する。アーカイブズ管理研究全体の総論であるとともに、組織体の記録管理、記録の収集移管、評価選別、地域に伝わる歴史アーカイブズの保存管理などについて考える。また評価選別などの演習を行う。講義の柱は以下の6本である。</p> <p><b>1. アーカイブズ管理研究総論</b> アーカイブズ管理論全体の総論として、文書館のアーカイブズ保存管理機能を総括的に明らかにするとともに、現代における記録の社会的な位置と、文書館の保存責任を考える。</p> <p><b>2. 組織体の記録管理</b> 文書のライフサイクルを踏まえて組織体での記録管理の方法についてその実状とともに論じる。また、現代における記録管理を取り巻く諸状況を紹介し、組織体に求められる記録管理のあり方を明らかにする。とくにアーカイブズ・システムとの連続性に留意する。</p> <p><b>3. 行政機関の記録管理</b> 行政機関における文書・記録の作成・利用・管理の方法と仕組みについて、組織活動における文書・記録の役割・意義などとともに明らかにする。また、電子文書システムの導入に伴うレコードマネジメントの変化や留意点について紹介する。</p> <p><b>4. 大学の記録管理</b> 大学における記録について上記の諸点について明らかにする。</p> <p><b>5. アーカイブズの評価選別</b> 自治体などの組織体を具体的に取り上げ、記録管理（レコードマネジメント）の実際、記録類の文書館への移管について紹介したうえで、組織体記録史料の評価選別理論を歴史的に整理し、評価選別論の理論的・実践的な展望を行う。これによって文書館に求められている社会的要請を照射する。また評価選別を行っている公立文書館において、評価選別の演習を行う。</p> <p><b>6. 民間アーカイブズ・コントロール論</b> 地域に存在する個人の記録や親機関との関係が曖昧な記録に対する文書館などの保存機関の役割や、具体的な調査法や受入れ方法などについて検討し、新たな民間アーカイブズのコントロール論を提起する。あわせて内外のアーキビストによる具体的な取り組みなどについても紹介する。</p>		
	コマ	内 容	講義担当者
	1	<b>1. アーカイブズ管理研究総論</b>	渡辺浩一
	2	(1) アーカイブズ管理論の構成と研究動向 (2) 現代社会における記録管理とアーカイブズ	
	3	<b>2. 組織体の記録管理</b>	小谷允志 （（株）出版文化社 アーカイブ研究所）
	4	(1) 組織活動と記録管理 (2) 記録管理の新潮流	
	5	<b>3. 行政機関の記録管理</b> －組織活動とレコードマネジメント－	太田富康 （埼玉県立文書館）
6	<b>4. 大学の記録管理</b>	清水善仁（神奈川県立公文書館）	
内容と構成	7	<b>5-1. アーカイブズの評価選別</b>	薄井達雄 （神奈川県立公文書館）
	8	(1) 公文書管理の実際 (2) 日本における評価選別の状況 (3) 神奈川県における評価選別の実際	
	9		
	10	<b>5-2. アーカイブズの評価選別（実習）（於・神奈川県立公文書館）</b>	薄井達雄 遠藤 茂 （神奈川県立公文書館）
	11	(1) 評価選別演習 (2) 演習総括討論	
	12		
	13		
	14	<b>6. 民間アーカイブズ・コントロール論</b>	太田尚宏
	15	(1) 民間アーカイブズ調査論 (2) 民間アーカイブズ受入論	
	16	<b>7. 総括演習</b>	渡辺・太田



科目名	〔科目4〕アーカイブズ管理研究Ⅱ 記述の実践		担当教員	加藤聖文
ねらいと柱	アーカイブズの記述編成（対象とする記録または資料の情報を入手し、記述した後、分析して編成し、最終的に体系化した情報を提供する過程）について、その理論と技法をまなぶ。対象とする資料の特性や環境に則した記述と編成、さらにはその情報の体系化を当館所蔵資料と情報システムを使って実習する。実習は、いくつかの班にわかれて実施し、作業過程と成果（作成した目録）について議論を行う。講義の柱は以下の5本である。			
	1. アーカイブズ記述編成総論 電子記録を含めたアーカイブズの記述編成について、国内外の実際例を紹介しつつ、基礎的理論を学ぶ。とくにISAD（G）およびISSAR（CPF）を採り上げつつ、アーカイブズ記述編成の基本原則を理解し、国際的標準化の可能性と一般への情報提供を考える。			
	2. 文化資源アーカイブズ記述論 書物など文化資料の地域における形成や管理・利用のあり方を踏まえ、その記述方法について紹介する。その際、他の文化資料や地域に伝来する記録史料との関係にも触れる。			
	3. アーカイブズ情報システム論 アーカイブズの記述・編成および情報システムの構築・利用について、諸外国の動向を踏まえた基礎的理論を学ぶ。			
	4. 前近代アーカイブズの記述編成実践 アーカイブズの記述の主要な操作である、編成（整理）・記述・検索手段（資料目録）作成について、当館所蔵の資料（前近代資料）によってその手順と技法を実習する。実習は班ごとに分かれて行い、作業手順・作成目録について成果を報告する。			
	5. 近現代アーカイブズの記述編成実践 アーカイブズの記述の主要な操作である、編成（整理）・記述・検索手段（資料目録）作成について、当館所蔵の資料（近現代資料：行政文書・個人資料・団体資料、紙媒体以外の写真・モノ資料を含む）によってその手順と技法を実習する。実習は班ごとに分かれて行い、作業手順・作成目録について成果を報告する。			
内容と構成	コマ	内 容		講義担当者
	1	1. アーカイブズ記述編成総論		加藤聖文
	2	(1) 国内外の記述編成の実際 (2) 記述と編成の基本原則と国際標準		
	3	2. 文化資源アーカイブズ記述論 －書籍情報の記述－		入口敦志
	4	3. アーカイブズ情報システム論		研谷紀夫 (関西大学)
	5			
	6			
	7	4. 前近代アーカイブズの記述編成実践 －町方・村方・武家文書の記述と編成－		西村慎太郎 山田哲好
	8			
	9			
	10	5. 近現代アーカイブズの記述編成実践 －行政文書・個人資料・団体資料の記述と編成－		加藤聖文 太田尚宏
	11			
	12			
	13			
	14			
15	6. 総括演習		山田・加藤・ 西村・太田	

科目名	〔科目5〕 アーカイブズ管理研究Ⅲ 社会貢献と普及活動		担当教員	山田哲好
ねらいと柱	現代市民社会において、アーカイブズは学術研究や文化の創造と発展に寄与する資源であるだけでなく、市民の人権や権利を保証するために必要不可欠なものである。本科目では、市民社会におけるアーカイブズのあり方について、アーカイブズを市民社会へ開かれたものとするための普及活動や公開、保存活動といった社会貢献、市民社会との関係について具体的な事例を中心に講義を進め、実践的な知識の習得を目的とする。講義の柱は以下の6本である。			
	1. アーカイブズ公共活用論 現代市民社会におけるアーカイブズのあり方を考える際に基礎となる理念を学び、調査・収集・保存・公開の具体的なあり方を考える。			
	2. アーカイブズの公開活動 我が国におけるアーカイブズ公開活動の具体的方法と問題点につき、原資料の閲覧及び展示を中心に論じ、デジタル環境における公開の考え方にも言及する。			
	3. アーカイブズの情報発信 社会貢献に向けた記録資料保存機関における情報発信の対処法や具体的な情報環境整備を理解する。			
	4. アーカイブズの普及活動 社会貢献としての普及活動について、利用者層が不特定多数の市民へと拡大している現状を認識し、その意義と役割を論じ、具体的方法は事例を検討しながら考察する。			
	5. アーカイブズ活動の実際 現在の日本において特色あるアーカイブズの実際の活動と現状での問題点などを学び、今後のアーカイブズのあり方を考える。			
	6. アーカイブズ活動と市民ネットワーク 文書館など収蔵公開機関に収蔵されていない社会に遺されているアーカイブズの保存はどのような課題に直面しているか。その問題に対応するため、住民やNPO・ボランティアの役割について考察する。また、災害における保存対応についても考える。			
内容と構成	コマ	内 容		講義担当者
	1	1. アーカイブズ公共活用論		山田哲好
	2	(1) 理念と理論 (2) 公共活用の具体事例		
	3	2. アーカイブズの公開活動		太田尚宏
	4	3. アーカイブズの情報発信		山田哲好 西村慎太郎
	5			
	6	4. アーカイブズの普及活動		山田哲好
	7			
	8	5-1. アーカイブズ活動の実際－研究機関のアーカイブズ		神田啓史 (国立極地研究所)
	9			
	10	5-2. アーカイブズ活動の実際－施設訪問		放送ライブラリー 横浜開港資料館
	11			
	12			
	13	6. アーカイブズ活動と市民ネットワーク		西村慎太郎
	14	(1) 保存活動とボランティア・NPOの役割と問題点 (2) 災害における保存活動の功罪		
15	7. 総括演習		山田・西村・太田	



科目名	〔科目6〕アーカイブズ管理研究Ⅳ 保存管理		担当教員	青木 睦
ねらいと柱	記録史料をモノとして物理的に保存するため、記録史料に対してどのような考え方と実践がアーキビストに求められるのか、基本となる保存理論から保存修復の具体的処置までの保存修復システムを総合的に考える。特にここではアーキビストが保存担当者（プリザベーション・アドミニストレーター）として必須である保存科学的な保存方法や最新の保存修復技術、史料の利用提供について理解を深めることを目的とする。講義の柱は以下の6本である。			
	1. アーカイブズ保存論 保存管理論の総論。文書館などにおけるモノとしての記録史料の保存活動全般、大量史料の保存修復システムを、アーカイブズの物理的保存理論から保存プログラム問題を中心に学ぶ。			
	2. 保存科学 記録史料の媒体ごとの組成など物質的特徴を把握し、特に紙史料を主に温湿度・光・大気汚染・虫菌などによる劣化損傷の原因と症例を学び、保存科学的対処法を中心に、環境コントロールの基準、モニタリングの方法・技術を学ぶ。			
	3. 予防措置論 記録史料の劣化損傷要因を防除していくため、収納方法・容器の選択や劣化誘因物質の除去方法など科学的保存措置を紙・写真フィルムなどを対象として、実習をまじえて学ぶ。			
	4. 修復技術論 修復の対象をまず近世史料、特に和紙を中心に、伝統的な修復技術と現代的な大量修復技術を学び、実習を行う。次に、近現代史料、特に酸性洋紙を中心に、脱酸処置と補強のための新たな技術による修復技術を学び、実習を行う。			
	5. 施設管理論 アーカイブズの基本的機能を前提としてアーカイブズ建築固有の建築のあり方や建築計画の問題について学ぶ。			
	6. 災害とアーカイブズ アーカイブズの防災対策について、諸外国の事例を交えながら、基本的考え方と具体的防災計画の立案とその実施方法について考える。			
内容と構成	コマ	内 容		講義担当者
	1	1. アーカイブズ保存論		青木 睦
	2	(1) 保存理念と保存修復の原則		
	3	(2) 日本・海外の保存修復の歴史と現状		
	4	(3) アーカイブズ記録媒体変遷と保存技術の課題		
	5	(4) 保存プログラムの構造と構築		稲葉政満 桐野文良 (東京芸術大学大学院)
	6	2. 保存科学		
	7	(1) 記録史料の保存科学と劣化の構造		
	8	(2) 環境制御の基準と方法・技術		
	9	(3) 収蔵環境モニタリングの方法と技術		青木 睦
	10	3. 予防措置論		
	11	(1) 状態調書の作成技術と実際		
	12	(2) 保存容器各種の作成方法と実際		
	13	4. 修復技術論		川口法男 (石川県文化財保存修復協会)
	14	(1) 劣化損傷の症例と修復事例		
	15	(2) 繕いと裏打ちの方法と実習		
	16	(3) リーフキャストの方法と実際		
	17	(4) 簿冊の解綴・修復と再製本		金山正子 (元興寺文化財研究所) 青木 睦
	18	(5) 修復技術・システムの評価と修復記録		
	19	5. 施設管理論		
20				
21	6. 災害とアーカイブズ		松下正和 (近大姫路大学)	
22	7. 総括演習		青木 睦	

# 平成25年度 長期コース日程 東京会場

## 前期第1週 コーディネーター：大友一雄

	I 9:30～11:00	II 11:10～12:40	III 13:40～15:10	IV 15:20～16:50
7／22 (月)	開講式 オリエンテーション	科目1：現代社会とアーカイブズ (大友一雄)	科目1：アーカイブズの歴史 (大友一雄)	
7／23 (火)	修了論文準備	科目1：アーキビストの役割と養成 (安藤正人)	科目1：アーカイブズ管理の実際 (山田哲好・青木睦)	
7／24 (水)	科目1：アーカイブズ機関の組織と運営 (於：埼玉県立文書館)			
7／25 (木)	修了論文準備	科目1：アーカイブズ学関連領域論 (保坂裕興)	科目1：アーカイブズと情報技術 (古瀬蔵)	
7／26 (金)	修了論文準備	科目1：アーカイブズと法概念 (早川和宏)	科目1：総括演習	

## 後期第1週 コーディネーター：加藤聖文

	I 9:30～11:00	II 11:10～12:40	III 13:40～15:10	IV 15:20～16:50
8／26 (月)	修了論文準備	科目4：アーカイブズ記述編成総論 (加藤聖文)	科目4：文化資源 アーカイブズ記述 論（入口敦志）	
8／27 (火)	修了論文準備	科目4：アーカイブズ情報システム論 (研谷紀夫)		
8／28 (水)	修了論文準備	科目4：前近代アーカイブズの記述編成実践 (西村慎太郎・山田哲好)		
8／29 (木)	修了論文準備	科目4：近現代アーカイブズの記述編成実践 (加藤聖文・太田尚宏)		
8／30 (金)	修了論文準備	科目4：近現代アーカイブズの記述 編成実践（加藤聖文・太田尚宏）		科目4：総括演習 (山田・加藤・西 村・太田)

## 前期第2週 コーディネーター：西村慎太郎

7/29 (月)	修了論文準備	科目2: アーカイブズ資源研究総論 (西村慎太郎)	科目2: 近現代組織体の記録と管理① (加藤聖文)	
7/30 (火)	修了論文準備	科目2: 近現代組織体の記録と管理① (加藤聖文)	科目2: 近現代組織体の記録と管理② (浜井和史)	
7/31 (水)	修了論文準備	科目2: 前近代組織体の記録と管理① (大友一雄)	科目2: 前近代組織体の記録と管理② (渡辺浩一)	
8/1 (木)	修了論文準備	科目2: 前近代組織体の記録と管理② (渡辺浩一)	科目2: アーカイブズ構造論① (加藤聖文)	
8/2 (金)	修了論文準備	科目2: アーカイブズ構造論② (西村慎太郎)	科目2: 総括演習 (加藤・西村)	

## 後期第2週 担当教員：山田哲好

9／2 (月)	修了論文準備	科目5：アーカイブズ公共活用論 (山田哲好)		科目5：アーカイブズの公開活動 (太田尚宏)
9／3 (火)	修了論文準備	科目5：アーカイブズの情報発信 (山田哲好・西村慎太郎)		科目5：アーカイブズの普及活動 (山田哲好)
9／4 (水)	修了論文準備	科目5：アーカイブズの普及活動 (山田哲好)	科目5：アーカイブズ活動の実際－研究機関のアーカイブズ (神田啓史)	
9／5 (木)	修了論文準備	科目5：アーカイブズ活動の実際－施設訪問 (於：放送ライブラリー、横浜開港資料館)		
9／6 (金)	修了論文準備	科目5：アーカイブズ活動と市民ネットワーク (西村慎太郎)		科目5：総括演習 (山田・西村・太田)

## 前期第3週 コーディネーター：渡辺浩一

8／5 (月)	修了論文準備	科目3：アーカイブズ管理研究総論 (渡辺浩一)	科目3：大学の 記録管理 (清水善仁)
8／6 (火)	修了論文準備	科目3：組織体の記録管理 (小谷允志)	科目3：行政機 関の記録管理 (太田富康)
8／7 (水)	修了論文準備	科目3：アーカイブズの評価選別 (薄井達雄)	
8／8 (木)	科目3：アーカイブズの評価選別（実習） (於：神奈川県立公文書館)		
8／9 (金)	修了論文準備	科目3：民間アーカイブズ・ コントロール論（太田尚宏）	科目3：総括演習 (渡辺・太田尚)

## 後期第3週 コーディネーター：青木 睦

9/9 (月)	修了論文準備	科目6: アーカイブズ保存論 (青木 睦)		
9/10 (火)	修了論文準備	科目6: 保存科学 (稲葉政満・桐野文良)		
9/11 (水)	科目6: 予防措置論 (青木 睦)	科目6: 修復技術論① (川口法男)		
9/12 (木)	科目6: 予防措置論 (青木 睦)	科目6: 修復技術論② (金山正子・青木 睦)		
9/13 (金)	科目6: 施設管理論 (青木 睦)		科目6: 災害とアーカイブズ (松下正和)	科目6: 総括演習 (青木)

## 前期第4週

8/12 (月) ～ 8/16 (金)	修了論文の指導と作成 (国文学研究資料館又は職場・自宅)			
---------------------------------	---------------------------------	--	--	--

## 後期第4週

9/17 (火) ～ 9/20 (金)	修了論文の指導と作成 (国文学研究資料館又は職場・自宅)			
---------------------------------	---------------------------------	--	--	--

●アーカイブズ総論●      アーカイブズの保存と活用の歴史を学び、現代社会における文書館とアーキビストの役割を考える

1. 現代のアーカイブズとアーキビストの役割      国文学研究資料館研究部教授      大友 一雄

●アーカイブズ論●      アーカイブズの本質と構造を、情報学・組織学および記録管理学などから多面的に理解する

1. アーカイブズ資源論      国文学研究資料館研究部教授      渡辺 浩一

●アーカイブズ管理論●      収集・移管から保存・利用まで、アーカイブズを永続的に守り活かすための科学的な管理・運用システムを考える

1. アーカイブズ・レコード・マネジメントと情報コントロール      戸田市アーカイブズ・センター専門員      佐藤 勝巳

2. アーカイブズの記述編成      国文学研究資料館研究部准教授      山田 哲好

3. アーカイブズの保存環境と劣化損傷の予防      国文学研究資料館研究部准教授      青木 睦

4. アーカイブズの保存修復      元興寺文化財研究所研究員      金山 正子

5. アーカイブズの公開と普及活動      国文学研究資料館研究部助教      加藤 聖文

●アーカイブズ管理と災害対応の実際●      アーカイブズの地域での活用や保存利用機関における管理業務、東日本大震災における被災の現場を巡行し、被災文書等の救助・復旧・活用の報告と現状見学を交えながら学び、考える

1. 地域とアーカイブズ      国文学研究資料館研究部准教授      西村 慎太郎

2. アーカイブズのレスキュー活動      東北大学災害科学国際研究所所長・教授      平川 新

3. アーカイブズの管理と利用      遠野文化研究センター調査研究課課長      小笠原 晋

4. 被災地巡行

- ・山田町の公文書修復
- ・大槌町の被災状況
- ・釜石市における被災文書の保存と活用

平成25年度アーカイブズ・カレッジ〈短期コース〉日程（岩手県遠野市会場）

	Ⅰ 9：30～11：00		Ⅱ 11：10～12：40	Ⅲ 13：40～15：10	Ⅳ 15：20～16：50
11/11(月)	開講式 (大友・渡辺)	現代のアーカイブズとアーキビ ストの役割（大友一雄）		アーカイブズ資源論 (渡辺浩一)	
11/12(火)	アーカイブズ・レコード・マネジメントと 情報コントロール（佐藤勝巳）			アーカイブズの記述編成 (山田哲好)	
11/13(水)	地域とアーカイブズ (西村慎太郎)			アーカイブズのレスキュー活動 (平川 新)	
11/14(木)	アーカイブズの管理 と利用（小笠原晋）	被災地巡行（バス）山田町の公文 書修復（随員：青木睦・太田尚宏）		大槌町の被災状況	釜石市における被災 文書の保存と活用
11/15(金)	アーカイブズの保存環境と劣化損傷の予防 (青木 睦)			アーカイブズの保存修復 (金山正子)	
11/16(土)	アーカイブズの公開と普及活動 (加藤聖文)			総合討論 (青木・加藤)	閉講式 (青木・加藤)
11/18(月) ～22(金)	修了論文の指導と作成 (職場または自宅)				

\* 11月17日は、遠野文化研究センターとの共催で、岩手大学・盛岡大学・岩手県立博物館・遠野市立博物館・同図書館・釜石市郷土資料館などと連携した講演会を予定しております

## \* 申込書の記入などについて

1. 参加希望コース A～Cのうち、希望コースを○で囲んで下さい。
  2. 特別聴講      アーカイブズ関連の有職者は、開講科目のうち1科目の聴講が可能です。なお、応募者多数の場合は、全科目履修者を優先します。
  3. アーカイブズ・カレッジの修了論文希望題目と論文概略（短期コース希望者は参加動機など）  
この2項目は、定員を上回る応募があり選考を行うことになった場合の重要な参考としますので、その点をよくご承知のうえ、記入して下さい。
- ・参加申込書は、国文学研究資料館ホームページからダウンロードできます。また、これまでの修了論文題目も掲載されています。
- 〈国文学研究資料館ホームページ〉 <http://www.nijl.ac.jp/>

東京会場 人間文化研究機構 国文学研究資料館  
〒190-0014 東京都立川市緑町10-3



遠野会場 遠野市立図書館  
〒028-0515 岩手県遠野市東館町3-9

